

セブンス・ヘブン

SEVENTH HEAVEN



< 日本語解説書 >

フェザータッチ MAGIC

SEVENTH HEAVEN

BY LEWIS JONES

(訳注：これは昨年9月に96歳で亡くなった LEWIS JONES の7冊の本を再編集した「SEVENTH HEAVEN」の日本語解説書です。LEWIS はケンブリッジ大学出のインテリで、教師や脚本家、作家でしたがマジシャンとしても多くの作品を残しました。プロマジシャンが「PENN & TELLER」のショーで演じた作品もあります。この本にも100を超えるマジックや MOVE があり、セルフワーキングからテクニックを要するものまで内容は変化に富んでいます。しかし、テクニックを要するものの中には極めて難しいものもあり、一般向きではないものがいくつかあります。そこで、この解説書では訳者の判断で「これは厳しい」というもの、あるいは日本語では出来ないものなどは現象を紹介するにとどめました。そうしたトリックは9つあり、タイトルの前に「*」印を付けておきました。またどこが「難しい」のかも簡単にコメントしておきましたので、興味が湧いた方は個別にチャレンジしてください。

それでもまだ、**78のトリックと19のMOVE**が皆さんを待っており、ショー的なものからメンタルマジックまで変化に富んだ内容です。お楽しみください)

はじめに

この本は私がこれまでに販売したソフトカバーの7冊の本から再編集したものです。すでに絶版となっているものもありますが、9頁に挙げた7冊です。

これらの本を再編集することは私に個々のトリックを見直す機会もくれました。例えば、1900年代に発行されたコインでないといけないものもあるからです。

他の文献に転載されたものもありますが、すべてを見直してやり易いものになりました。私の友人達によって、素晴らしい進歩を遂げたものもあります。

この本の多くがカードマジックですが、パスやファローシャフル、ギミックカードなどは使いませんし、なによりその多くは私が好きなスタートポイント、つまり客がシャフルしたデッキで始められます。

内容に変化を付けるために、カード以外にコイン、紙幣、名刺、本、雑誌、イヤリング、紙と鉛筆などを使うトリックもあり、全体では100以上のトリックとアイデアが掲載されています。

どうぞ、楽しんでください。

CARDS WITH KNOBS ON

(カード以外の物を使うカードトリック)

DELPHIC AURICLE (デルフォイの耳)

(訳注：有名な「DELPHIC ORACLE」(古代ギリシャのデルフォイにあったアポロン神殿の神話)にかけたタイトルだと思います。このトリックでは、「指の爪でカードケースの裏をこする」などの擬音を客の耳に聞かせます)

これはPETER KANEの「RING IN THE CARD CASE」にヒントを得たものです。はじめはケースに穴を開けたり、ケースの中で音をたてるギミックなどを使いましたが、今ではすべて借り物で即席で出来るようになりました。

(現象)

客から借りたイヤリングがハンカチの中で消えてしまい、演技のはじめから見えていたカードケースの中から出てきます。準備も不要です。

(やり方)

前のカードトリックを行う時に、カードケースをテーブルの左に横向きにして置いておきます。短いエンドが左右を向いており、「半月」形の切込みは右に向けて下側にしておきます。前のトリックが終わったら、デッキは裏向きでケースの上に十字になるように縦に置きます。

正面あるいはやや右側に座っている客、ヘレンからイヤリングを借ります。指輪よりも外しやすく、今では指輪よりもイヤリングの方が一般的だと思います。それにイヤリングにはいろいろと面白い形もあるので話題に出来ます。

ハンカチを借ります。なければ自分のを使います。テーブルの中央で両手が空であることを見せたら、左親指と人差し指を伸ばし、他の指を握ってイヤリングを取り上げます。

—以下省略—

MINT SAUSE

PAUL CURRY のトリック「A PENNY FOR YOUR THOUGHTS」では、客が指示書にしたがってコインをどけていくと最後に最も安いコインが残ります。ただ、そこでは5枚の異なるコインを使っていますが、即席でやる時には5枚がそろうとは限りません。また6つのサークルを書いた紙に置かせますが、紙が十分大きくないとコイン以外の品物によっては乱雑になりがちです。また50%のケースで、ある口実をつけて紙を180度回転させるということが必要になります。

私はこれらをすべて考慮してヴァリエーションを考えました。そこでは客にもうかる大きなチャンスを与えて、それが次第にしぼんでいくのです。またフリーチョイス的要素を増やしました。

(準備)

以下の指示を書いた小さな紙あるいはカードを用意します。

1. 紙幣を入れ替えてください。
2. キーを入れ替えてください。
3. コインと時計を入れ替えてください。
4. 6番の品物を私にください。
5. コインをその両側のどちらかの品物と入れ替えてください。
6. 紙幣とキーを入れ替えてください。どの紙幣でも、どのキーでも良いです。
7. 1番の品物を私にください。
8. コインをその両側のどちらかの品物と入れ替えてください。

9. 2番の品物を私にください。
 10. コインをその両側のどちらかの品物と入れ替えてください。
 11. 3番の品物を私にください。
 12. 残っているものを入れ替えてください。
 13. 4番の品物を私にください。そして、残ったものをお取りください。
- 他に1組のデッキが必要です。

(やり方)

折りたたんだ指示書をテーブルに置きますが、内容については何もコメントしません。次にデッキからA~6を抜き出してAを上にして重ねて裏向きに指示書の上に置きます。

客に1枚のコインを出させたら、「私も賭け金を出します」と言います。客はマネートリックだと思っていたのが、「掛け金」と言われて不安になります。メンタリストは少額紙幣を取り出します。客に今度は高額紙幣を出させます。メンタリストは腕時計を外して加え、さらに自動車のキーを加えます。最後に客に家のキーを出させます。つまり、賭けるものが次第に高額なものになって行くわけで、賭けに負けたら大変だという雰囲気盛り上げます。

客に6つの品物を自由に並べてもらいます。何度気を変えてもかまいません。

—以下省略—

FORCE 18

これはGEORGE SANDSの「ODDITY PRINCIPLE」を使った、巧妙な数字のフォースです。

4枚の紙をテーブルに並べます。客にペンを渡して1~8の数字を紙に書いてもらいますが、まず左の紙の表に1と書き、次の紙に2、と順番に4まで書き、次にそれぞれの紙を裏返して、左から5, 6, 7, 8と順番に書いてもらいます。

—以下省略—

JUST IN CASE

客はこのトリックではマジシャンがパームなどのテクニックを使ったに違いないと思いますが、実際にはパームやギミックは使わずに客はサトルティーによってだまされるのです。

(現象)

マジシャンは4枚の同一数値のカード、例えば4Qをデッキから抜き出します。客が1枚のカードを自由に選んだらその上に4Qを置きます。それらの上でカードケースをマジックワンド代わりにふると、客のカードが消えてしまいます。客がカードケースをふるとカタカタと音がして、中に何かがあることが分かります。ケースを開けると、中から客のカードが出て来るのです。

(やり方)

これは客からデッキを借りるという厳しい条件の下で行えます。客からケースに入ったデッキを渡されたら、フラップを開けてフェースカードを見ます一赤のQだとします。

右手に持ったケースからデッキを左手の中に裏向きで滑り出させますが、

—以下省略—

TIME SWITCH

(現象)

2人の客A、Bが好きな時間に腕時計を合わせたら、時計を交換します。自由にシャフルされたデッキの中から、自分の時間の枚数にあるカードを覚えます。

マジシャンは、一方の客のカードを他方の客のセットした時間の枚数から出してみせると言って、実際にそうして見せます。これはデッキをシャフルしてすぐにまた新しい時間とカードで繰り返すことができます。

最後に時計を元に戻すと、手を触れてなかったのに2枚の客のカードも入れ替わってしまうのです。

(やり方)

客AとBに腕時計を外して好きな時間(1~12)にセットしてもらい、時

計を交換します。

客にデッキをシャフルさせたらマジシャンは後ろを向き、2人の客にそれぞれデッキのトップから自分がセットした時間と同じ枚数だけカードを取ってもらいます。仮に、Aが5時で5枚、Bが9時で9枚取ったとします。両方のカードを重ねてシャフルしてもらいます。

どちらかの客にそのカードをトップから1枚ずつ表向きに配ってもらい、それぞれ自分の時間の枚数目にあるカードを覚えてもらいます。Aは5枚目、Bは9枚目を覚えます。ディーリングに代えて、それぞれの客にポケットを持たせて自分のカードを見させても良いです。ポケットを裏向きにさせたら、マジシャンは向き直ります。2人の客がお互いに相手の時間とカードを知らないことを確認します。

そうした話をしながら、マジシャンはポケットを取り上げて何気なくオーバーハンドシャフルをしますが、

—以下省略—